

令和5年度 第4回小糸・清和地区公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和6年3月6日（水）15：00～16：45

開催会場 清和公民館 会議室1

議題等 (1) 君津地方公民館運営審議会連絡協議会視察研修について
(2) 令和6年20歳のつどいについて
(3) 事業報告について
(4) 令和6年度事業における重点取組テーマ(分野)の設定について

出席委員 伯ヶ部賢一、小川和子、白井啓子、藤村龍一、佐藤ますみ、奥村成美、伊藤修一、佐藤利則

出席職員 小糸公民館 大野館長、小林副館長、隅越主事
清和公民館 成川館長、安部副館長、寺本公民館主事
濱田主任主事、小間社会教育指導員

公開または非公開の別 公開 ・ 非公開

傍聴者 なし（定員 5名）

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告

(1) 君津地方公民館運営審議会連絡協議会視察研修について

藤村委員長：代表して行かせていただきました君津地方公民館運営審議会連絡協議会視察研修について報告させていただきます。

・別紙いろは遊学館視察説明資料に沿って、藤村委員長より視察研修について報告。

(2) 令和6年20歳のつどいについて

藤村委員長：令和6年20歳のつどいについて小糸公民館から報告をお願いします。

【小糸公民館】

・資料1頁に沿って、小林副館長より小糸地区20歳のつどいについて報告。

【清和公民館】

・資料2頁に沿って、寺本公民館主事より清和地区20歳のつどいについて報告。

(3) 事業報告について

藤村委員長：事業報告について小糸公民館から報告をお願いします。

【小糸公民館】

- ・小林副館長より各公民館の事業報告を別冊として配布したことについて説明。
- ・資料3頁から6頁に沿って、隅越主事より家庭教育学級、親子教室及びチャレンジスクールについて報告。

【清和公民館】

- ・資料7頁から8頁に沿って、濱田主任主事より清和地域拠点複合施設開館記念式典及び第51回清和地区文化祭について報告。
- ・資料9頁に沿って、小間社会教育指導員より清和の魅力探訪ウォークガイドブック及びおうち時間を楽しむ講座について報告。

藤村委員長：小糸と清和から事業報告がありました。感想や質問がありましたらお願いします。

伊藤委員：小糸の家庭教育学級番外編ですね。興味で聞いてしまって申し訳ないのですが、多世代と一緒にやれるということで参加者には評判が良い事業であったのではないかと思います。身体を動かして、親子やおじいちゃんおばあちゃんと作るということが今ないでしょうから良い事業だったのではないかなと聞いていました。ここに講師が誰とは書いていないですが、サークルの中で誰かがいたのか、保護者の方でできる方がいたのか、あるいは公民館の職員に素晴らしい方がいてやったのか。また、竹の伐採から始まり油抜きとありますが、50から70くらいの竹が必要ではないかと思いますが、バーナーで焼いたのか釜の中に入れて煮たのか。素晴らしい事業であると評価はしていますが、そういったことを参考までに聞かせていただければと思います。

隅越主事：公民館の夜勤をしているシルバーさんで竹林をお持ちの方から、竹がたくさんあるから何かに使わないかと声をかけていただきました。そこで竹を使った事業ができないかと調べていたところ、竹にバウムクーヘンの生地を塗って焼くことを繰り返すことで大きなバウムクーヘンができるということを見つけ、やってみようとなったことがきっかけでした。竹の油抜きの方法としては、おっしゃるとおりバーナーであぶったり茹でたり、両方試してみましたが、どちらでも使用できることがわかりました。当日は、茹でた竹の方が多かったかと思いますが、あぶったものとどちらも使用しました。余った竹が30本ほどあり、欲しい方はどうぞと伝えたところすべての竹がなくなったため、みなさんがお持ちになったのだと思います。

伊藤委員：特別、先生がいて経験したということではないということですか。

隅越主事：特別、先生はいない中で実施しました。一度試作をして当日を迎えました。

伊藤委員：それでこんなにできるものですか。写真を見るととてもきれいにできているようすが。

隅越主事：形はさまざまでしたが、かなり大きなバウムクーヘンができていました。この写真は大人が焼いたものではなくて小学生が焼いたバウムクーヘンの写真です。コンロの上で竹をころころと転がしながら全体的に焼き色を付け、生地を重ねていくという簡単な工程で作れます。材料はホットケーキミックスと卵と牛乳のみなのでコストもかかりませんでした。

伊藤委員：粉とかも自分たちで混ぜたものを使って焼いたということですか。

隅越主事：そうですね。

小林副館長：本人はすごく簡単に話してしまっていて、言えば一言ですが、ここには準備に相当手がかかっていることはご理解いただいて、一生懸命やった成果としてそうなったということをご理解いただけますと幸いです。

伊藤委員：苦労したこともあったと思います。難しそうですが、とてもきれいに焼けていますよね。これはバーベキューのコンロですか。これだけの数が揃っていたということですか。

隅越主事：バーベキューのコンロです。小糸にはないため、家族に持ってきていただいたり、他の公民館からお借りしたりしました。

藤村委員長：伊藤委員が興味をお持ちのようですから、いろいろと教えてあげてください。

佐藤ますみ委員：家でもできそうですね。

大野館長：必要であれば隅越を講師で派遣します。

伊藤委員：ありがとうございます。はっきり言ってそれが言いたかったです。

小川委員：私もたまたま他のサークルでその場にいたのですが、すごくいい匂いがするので何をしているのかなと思ったら、みなさんが楽しそうにバウムクーヘン作りをやっていました。ここでは伝わってこないのですが、匂いもすごくよかったです。私もそのときに公民館のシルバーさんから「小川さんもお家で作ってみな」と言ってレシピと竹をいただいたのですが、まだ作っていないのもしよかったです竹はあります。とっても楽しそうでした。

藤村委員長：他にございませんか。おらがわの式典で私がよかったなと思ったのは、保育園児による乾杯です。あれはよかったですね。式典というどうしてもかしこまってしまいますが、あそこでみんながふわっとしましたよね。清和の地域柄とか人柄とか企画者の意図が出ているなと思いました。すごく感激しました。他にはよろしいですか。それではここで一度区切らせていただきます。

4. 議事

(1) 令和6年度事業における重点取組テーマ(分野)の設定について

藤村委員長：令和6年度事業における重点取組テーマについて説明をお願いします。

【小糸公民館】

- ・資料10頁に沿って、小林副館長より小糸公民館及び清和公民館における事業の方向性について説明。
- ・資料11頁から12頁に沿って、隅越主事より令和6年度の重点取組テーマとして子育て支援関係事業の拡充について説明。

【清和公民館】

- ・資料13頁に沿って、安部副館長より令和6年度の重点取組テーマとして地域活性化・賑わい創出について説明。

藤村委員長：ありがとうございました。両公民館から令和6年度における事業の方向性について説明がありました。お考え、経験等も踏まえて各委員から一言ずついただきたいと思います。佐藤ますみ委員からお願いします。

佐藤ますみ委員：主催事業としてずっと続いてきた家庭教育学級や高齢者学級等といったものも、対象人数、子どもの人数がいらないということで、見直しをしていくことは必要だと私も思っていました。状況に応じて対応していくということはその通りだと思います。同じようなことをやっている館があつて人数が少ないのであれば、共同してやっていくということも大切だと思います。これから先、20歳のつどいにしても小糸地区と清和地区は一緒に周東中学校でやることになるので、子どもの頃から親子教室等といったものについても協力し合いながらやっていけたらいいと思います。小糸公民館のプレイルームは君津市内で最初に開設された地域子育て支援施設でだんだん充実してきていると思いますが、今後も充実を図っていただきたいと思います。清和公民館は趣味教養講座としておうち時間を楽しむ講座をやっていくということで、これには例えばパン作りなども含まれているということですよ。

安部副館長：来年度4月当初にパン作りはサークル化されますので、また新しい取り組みを考えて、サークルが生まれるような事業を展開していきたいと思います。

佐藤ますみ委員：はい。体験せいわ学、清和の魅力探訪ウォーク、こういった活動で継続的に関わりをもって人口創出につなげるということもよろしく願います。以上です。

藤村委員長：伊藤委員をお願いします。

伊藤委員：方向性について、良いと思いますので賛成します。人口減少であればどうしようもないですよ。利用者数を増やしていくこと、これはもう課題ではないと思っています。一般的に言われるのは質を高めるということですが、これもまた難しいことだと思います。小糸地区のプレイルームは年数も長く続いています。他

の模範になるように継続して取り組めば素晴らしいと思いますし、方向性についても賛成です。全館協議でテーマを決めるということですが、市街地には人がいるからこんなことがやれるのだというのではなく、この清和、上総といった人口減少の進んでいる地域を補うような活動を市街地にやってもらってもよいのではないかと思います。全館で共通事項はやる、あとはそれぞれの地域の特色に応じた取り組みをやるということは大賛成です。清和には清和なりのやり方がある、小糸には小糸なりのやり方があるということだと思います。私が一番考えているのは、9月に地域づくりの説明があったときに公民館としての役割について話がありましたが、それを考えてみた場合やはり公民館サークル活動ですよね。担い手を育成するために、自分たちの趣味嗜好で教養を身につければよいということだけではなく、それを地域貢献に生かしてもらいたいという考えを持っています。清和の場合、地域活性化・賑わい創出というテーマを設けたのは素晴らしいと思います。ぜひサークルでできた人材を地域活動に生かしてもらいたいと思っております。各公民館の人材活用をすることは担い手育成として欠かせないものだと思います。公民館で活動している方は特色や特徴、技能を持っている方たちだと思いますので、地域活性化、地域支え合い活動、大きく言えば地域づくり活動に貢献してもらいたい、そこにつなげてもらいたいと考えております。ぜひそれぞれの特徴を公民館で生かしてもらえればと思います。以上です。

藤村委員長：奥村委員お願いします。

奥村委員：小糸も清和も方向性は素晴らしいと思います。佐藤さんからもありましたが、子ども教室等を合同でやるというのは、もっと広い公民館とのつながりも必要だと思いますが、当面は周東中の学区となる小糸と清和が合同でやるということには本当に有益なことだと思いますので、どんどん実施していただきたいと思います。

清和の方で、教室からサークルに移行するという報告がありました。サークルが自然発生するというのはすごく難しいことだと思いますので、ぜひそういった講座をどんどん開いていただいてサークル化につながるように、そうすることで先ほど伊藤委員がおっしゃったような力を発揮できる方も出てくるのかなと思います。清和の魅力探訪ウォークには地区外からの参加が多く外から関わりを持つ方が増えているということでした。ちょっとずれてしまうかもしれませんが、保育園留学について昨日か一昨日の新聞に記事がありました。あけぼの保育園では、亀山温泉ホテルに2週間くらいお泊りしながら暮らしを体験して、君津の魅力をわかってもらおう、こちらの自然体験を通して保育をしている素晴らしさを知ってもらおうということをやっているそうです。そのように何かのきっかけで外の方を引き込めるような企画ができれば素晴らしいなと思います。以上です。

藤村委員長：佐藤委員お願いします。

佐藤利則委員：新しい事業の方向性ということで、人が少なくなったのですね。特色を持った取り組みということで大変ご苦労されていると思います。今聞いていまして、私は昭和43年から5年間君津中央公民館に勤務していました。昭和50年から6年間、今のスポーツ推進課に勤務していました。その頃は、とにかく若さでむせ返るほど動いてとにかく楽しくてしかたなかったです。昭和44年には小糸青年団ができて、恒例会をやる、ダンスがしたいから青年団に入ろう等、

自由奔放で若さにあふれかえっていました。平成22年から2年間、文化協会の事務局を仰せつかりまして、昭和50年にできまして今年がちょうど50年と丸5年です。昭和50年代は清和で文化協会の会員が100人以上いました。これは大変なことですよ。お金を払って会員になって、清和地区が100人というのは今でもびっくりします。どこの公民館でもそうですが、趣味教養講座と称して書道や絵画、短歌、俳句といったことを企画し、友だちを誘って文化協会にも入るという循環がありましたから、非常に活発な活動をしていましたね。昭和50年と平成22年を比べると、リーダーは同じ人で50歳だった人が70歳でやっているということで、若い人がいないという現実がありました。若い人がいないから仕方がないが、各公民館でここは絵画、ここは書道というように講師を文化協会から派遣する事業をやってみようかという話が合ったのですが、そのときは既に我々も年で気力もなくなっているし、会員でできる人を派遣すると言ってもその方も活力がなくなっているということもあり実現しませんでした。同じような状況が今の公民館にも起きているということで、歴史の必然かなというように感じていたところです。具体的にどういう方法があるかというところはあるわけではないですが、たしかにこういったことが出てくるのかと思います。大変ご苦労されていると思います。また機会がありましたら文化協会の人々の分析などもしようかなと思っていたところです。余談も入りました。

藤村委員長：では、白井委員お願いします。

白井委員：事業の方向性について、小糸は子育て支援、清和は地域活性化ということで今後考えていくということでしたが、小糸と清和が共同でやっていくというのはすごくいいことだなと思いました。すぐというのなかなか難しいかもしれませんが、いろいろなサークルがそれぞれありますので、そのサークルの人と一緒に活動していただくとスムーズに進んでいくのではないかと思います。清和の方でパン作りを紹介いただき、支部長研修で体験させていただいたのですが、大変評判が良くまたやりたいねと話していたところでした。清和でパン作りのサークルが立ち上がるという話がありましたので、支部長にも伝えて支部に帰って話をいただけるといいなと感じております。各公民館とのつながりで活動が紹介されて、私たちが知らなかったことを教えていただくというのはとてもいいことだなと思いました。よろしくお願いします。

藤村委員長：では、小川委員お願いします。

小川委員：人口減、少子化、予算減を受けてということですね。予算減についてはよくわかりませんが、たしかに人口減はサークル活動をやっていても人数が減ってどうしようかという話が出てくるので感じます。大きな問題ですが、公民館はなくてはならないもので、事業に参加して学ぶということはとても大事なことだと思います。小糸と清和の特色を生かしたものをを出していくということですが、基本メニューの中で全館共通の高齢者学級も小糸の場合、前はいっぱいいましたが今年度は10人くらいしかいなくてあららと思いました。小糸だけでやるもの、清和だけでやるもの、合同でやるものというのがあってもいいのかなと思います。例えば、今回はスマホの講座がありました。それにはみなさんが楽しんで参加していてずっとやってほしいという方もいました。清和の方でもスマホをやりたいという方がい

たら参加できるようにできないのかなと感じました。高齢者学級は特に対象が高齢者なので、どんどん公民館に足を運んでおしゃべりしたり学んだりという機会があることがとてもいいことだとも思っています。プレイルームは小中学生も来ていいお部屋ですよ。誰でも来ていいということですよ。

隅越主事：はい。高校生まで大丈夫です。

小川委員：そこがちょっとわかっていないところがあるのかなと思います。小さい子どもだけというように思っている地域の方もいるので、休みの日などでも公民館に行って遊んでみようかなというときに、プレイルームで小さい子と遊ぶことで学ぶこともあると思います。私も孫を連れて遊びに行ったりすることがありますが、遊び道具がとてつもないので、あっちこっちのおもちゃで一生懸命遊んでいました。知らない人がいると思うので、プレイルームの良さをもう少しPRしていけたらいいのかなと思いました。清和の方で、おうち時間を楽しむというのはどういうことですか。自分の家で楽しむということですか。

安部副館長：コロナ禍であったときに、おうちで過ごさなければいけないというところがあったと思いますが、その中でもできる趣味であったり教養講座であったりということで、昨年度はパンやヨガの教室をやったり、今年度についてはパンをやりました。

小川委員：学んだことが家でもやれるということですね。清和の魅力探訪ウォークの記事を見て行きたいと思い参加したときに、炭窯の話もあり、ああそうなのかとすごく興味を持ちました。こういったものにも小糸でも行きたい方はいっぱいいると思うので、合同でやるとか特色のあるものは別々にやるとか、そういうことはとてもいいことだとも思いました。最初に言いました予算減はちょっと気になるところなのですが、以上です。

藤村委員長：何か予算減についてコメントはありますか。

小林副館長：相対的に厳しくなっているということですね。

小川委員：事業に対しての予算減ということですか。

小林副館長：全体的にそうですね。管理費というのは電気代や水道代等削れない部分もあるので、例えば5%切りなさい10%切りなさいとなったときに、管理費は削れないですよ。そうすると事業費から切るしかないの、本当は10%切れば良いところを15%とか20%切らないといけなくなってくるので、事業費がどんどん小さくなっていくというイメージですね。小糸と清和だけということではなく市全体として財政的にも厳しい状態にあるということですよ。

藤村委員長：よろしいですか。では、伯ヶ部委員お願いします。

伯ヶ部委員：公民館の特色化ということで、私のこれまでのイメージでは、自分の地区の公民館でやることであって、ほかの地区の公民館には参加してはいけないの

かなというものがあつたのですが、今お話を聞いていると参加して良いということですよ。そうすると、公民館の特色化ということでそれぞれの地区でいろいろなことができるのではないかなと思いますので、市内いろいろな地区に行ってみるのも面白いのかなと感じました。

藤村委員長：ありがとうございます。基本的には説明された方向でお願いできればと思っております。全館がやるもの・たて糸、館によってやるもの・よこ糸、これをうまく組み合わせればいいのかというように感じました。各館でやらなければならないこともあります、例えば茶の湯の釜が各館に必要なか、陶芸の窯が必要なかということ、ダンスのための鏡が各館に必要なかということです。ダンスはあそこに行けばできるよ、お茶はあそこに行けばできるよということでも良いと思います。1箇所ではどうかわかりませんが、私の認識が正しければ、茶の湯の釜は小糸と八重原にありますので、それでも良いのかなと思います。もちろん利用する方からすれば近くにあればベストですが、全部にとというのはなかなか難しい話だと思いますから、この公民館には音楽で音を出しても大丈夫な部屋があるよとか、そういうことをやっていかなければいけないと思います。そうすると、全部の公民館を同じように作っていく必要はないと思います。会議室とか何でもできる部屋とかそういった部屋はどこの公民館にも必要でしょうが、先ほど言ったようにここは茶の湯の部屋がありますよ、ここにはダンスができる部屋がありますよ、ここは歌が歌える部屋がありますよといったように、何箇所かの公民館でできれば、興味のある人はそこでも行くと思います。今年も良い行事には人が集まっています。各公民館は地域外からどの程度の方が来ているのかを把握していけば説得力があるのかなと思います。この前、小糸で男の料理教室があり、私も勉強だと思って行かせていただいたのですが、そのときもいろいろな地域から来ていました。それでいいのかと思います。地域の公民館に行かなくても、場合によっては木更津に行ったり来たり、そういうのがあっても良いと思います。その公民館の特色に合わせて、この公民館にはこれを作ろう、これは外そう等そういう発想があつて良いのではないかと思います。やっぱり企画をする方々の力がすごく出ますよね。大変だと思いますが、数で出ますからね。数だけではないと言っても、やはりいっぱい来てくれれば嬉しいだろうと思います。市のメール等でもここでこういうことをやりますよというのが来ますよね。そうすると興味があれば行くと思います。私も行きたいなと思えば周西に行くかもしれないですし、小櫃まで行くかもしれないです。そういうのもうまく使うと良いと思います。清和なら清和、小糸なら小糸だけですべてやろうというのは現実的に難しい話だと思います。今の1歳の子どもが1桁になってしまふと言われてしています。そうすると1歳の子どもだけを集めて何かやろうと言っても無理な話です。市内全体の子どもを対象にする、清和と小糸で集める等、まだまだ開拓する余地がありますよね。地域に優秀な方がたくさんいらっしゃいますので、活用していただきたいです。心配なのは、そういった方々もどんどん年を重ねているということです。今のうちに努力していただければ、公民館の将来はそれほど暗くないのではないかと感じています。

もし言い残したことなどありましたらお願いします。

佐藤利則委員：昔の話をしていたら思い出したことがいっぱいありまして、1点だけ申し上げます。私は実は野球の組織にもかかわっているのですが、昭和44年前市長の鈴木洋邦さんが野球の組織をつくった際に私は事務的な仕事をしており

ました。昭和46年に第1回野球大会を実施したのですが、優勝したチームが清和のチームでした。その頃清和のチームは5チームくらい出ていました。すごく若い力があったということですね。

藤村委員長：ではこれで、議事の方は終わりとさせていただいてよろしいですか。ご協力ありがとうございました。

小林副館長：貴重なご意見をありがとうございました。このご意見を受け止めて来年度進めていきたいと思えます。

5. その他

・次第その他（事務連絡）に沿って、小林副館長より令和6年度第1回小糸・清和地区公民館運営審議会について連絡。

次回会議 5月14日（火）15時 小糸公民館

・小林副館長より、退職に伴い伯ヶ部委員が公民館運営審議会委員を退任される旨連絡。

6. 閉会